

2024年2月18日 No. 3707

先週の講壇から

〃 帯を締められて 〃

ヨハネによる福音書 第21章 15節～19節

聖句「しかし、年をとると、両手を伸ばして、他の人に帯を締められ、行きたくないところへ連れて行かれる。」(21:18)

1. 《ツブシ?》 私が牧師になると決心した時、家業を切り盛りして来た祖母から「そんなツブシの利かない仕事に就いたらダメだ」と反対されました。ツブシとは鉄屑を再利用するためのスクラップ、古紙を再生紙にすることです。再生原料としてリサイクル出来る物を「ツブシが利く」と言うのです。再生不能の物はゴミなのです。私の祖母にとって、牧師はゴミのような存在だったのです。
2. 《不可逆性》 私自身はキリスト者ですから、牧師という務めに価値や意味があると思っています。とは言え、世の中には、ゴミのように思う人も居られるのは事実です。確かに、牧師にまで成ってしまうと、もう後戻り出来ないような気がします。一方通行の、後戻り出来ないかも知れない道に入ろうとしたら要注意です。自動車のドライバーなら躊躇して当たり前です。むしろ、注意も確認もせずに進む運転者の方が危険です。それが単なる道路ではなくて、自分の人生ならば尚更です。昨今は「キャリアアップ」と称して、勤め人が転職を繰り返すことも当たり前になっています。ツブシの利かなそうな、後戻りが難しそうな道を、若い人たちが敬遠するのも仕方のないことかも知れません。
3. 《進退両難》 イエスさまを失った後、元漁師の弟子たちは、ガリラヤ湖に戻って漁を始めますが、1匹の魚も獲れません。前にも後ろにも進めず、身動きが取れません。進退窮まってしまうのです。そんな時、復活のイエスさまがペトロたちの前に顕われるのです。主はペトロに告げられました。「あなたは、若い時は、自分で帯を締めて、行きたい所へ行っていた。しかし年を取ると、他の人に帯を締められて、行きたくない所へ連れて行かれる」と。私たちは「強いられる」ことを嫌います。「自主性、主体性、本意」が尊重されます。「好き嫌い」や「得手不得手」の感覚で進路を決める人も多い時勢です。しかしながら「自分で帯を締めて、行きたい所へ行く」のは牧師ではありません。牧師は「帯を締められて、連れて行かれる」者なのです。強いられる中で初めて見出す恵みもあるのです。

朝日研一朗牧師